

東京医科歯科大学教養部

教 育 要 項

— 教養教育 —

2022 年度入学医学部医学科 2 年

2022 年度入学歯学部歯学科 2 年



2024

目次

2024年度医歯学融合教育（教養教育）	1
教養教育	2
生命科学基礎	3
生命科学基礎(化学A)	4
生命科学基礎(化学B)	6
生命科学基礎(生物A)	8
主題別選択Ⅰ	15
主題別選択Ⅰ(科学と疑似科学の境界)	16
主題別選択Ⅰ(食品の科学)	17
主題別選択Ⅰ(生物間のコミュニケーション)	18
主題別選択Ⅰ(人体・医療の物理)	21
連携教育（歯学科のみ）	23
情報科学演習	24
サイエンスPBL	25
生命科学(人体の生物学)	27
生命科学(生物物理化学)	29
人文社会科学総合講義	31
東京医科歯科大学全学共通科目履修規則	33

2024年度医歯学融合教育(教養教育)

2024年度医歯学融合教育(教養教育)						
●医学科・歯学科(3年生)						
月日	曜日	回数	1時限(9:00~9:50)	2時限(10:05~10:55)	3時限(11:10~12:00)	
4月4日	木	1		主題別選択Ⅱ(前半) Zoom	主題別人文社会科学セミナー (前期:前半) Zoom	
4月11日	木	2				
4月18日	木	3				
4月25日	木	4				
5月2日	木	5				
5月9日	木	6				
5月16日	木	7				
5月23日	木	8				
5月30日	木	9				主題別選択Ⅱ(後半) Zoom
6月6日	木			専門科目		
6月13日	木	10		主題別選択Ⅱ(後半) Zoom	主題別人文社会科学セミナー (前期:後半) Zoom	
6月20日	木	11				
6月27日	木	12				
7月4日	木	13				
7月11日	木	14				
7月18日	木	15				
8月22日	木	予備	主題別選択Ⅱ(予備日)	主題別人文社会科学セミナー (予備日)		
9月12日	木	1			主題別人文社会科学セミナー (後期:前半) Zoom	
9月19日	木	2				
9月26日	木	3				
10月3日	木		専門科目			
10月10日	木	4		主題別人文社会科学セミナー (後期:前半) Zoom	専門科目	
10月17日	木	5				
10月24日	木	6				
10月31日	木	7				
11月7日	木					
11月14日	木	8				主題別人文社会科学セミナー (後期:後半) Zoom
11月21日	木	9				
11月28日	木	10				
12月5日	木	11				
12月12日	木	12				
12月19日	木	13				
1月9日	木	14				
1月16日	木	15				
1月23日	木	予備		主題別人文社会科学セミナー (医学科・歯学科3年生対象) 予備日		

教養教育

教養教育

世界に通用する医療人になるためには、専門教育で獲得する知と技に加えて、様々な文化や多様な世界を理解できる教養と、他者を理解するための人間としての力が求められています。教養部では、そのためには、教養教育と、専門教育を学ぶための基礎教育を並行して行うことが必要だと考えています。

1年次には国府台キャンパスで、自然科学や人文社会科学の基本的な考え方を学ぶとともに基礎学力の充実を図りました。2年次と3年次には湯島キャンパスで、専門教育と密接にかかわる自然科学の分野を「生命科学基礎」として学びます。さらに、自然科学、人文社会科学、語学について複合的に学ぶことをとおして、自己問題提起・解決型の想像力を付けることを目的とした、「主題別選択Ⅰ・Ⅱ」と「主題別人文社会科学セミナー」の授業が行われます。

科目概要

1) 生命科学基礎 (生物学・化学)

1年次の学習だけでは不十分であった生物学、化学の内容を補うとともに、生命科学に関するトピックも取り上げ、医歯学の専門に関わる教育の基礎となる科学を総合的に学ぶことで、基礎学力のさらなる充実を図り、専門教育への円滑につないでいくことを目的としています。

2) 主題別選択Ⅰ・Ⅱ

「人間」という存在について、人間を生物的社会的存在たらしめている要素である「文化」「生命」「言語」「制度」「時間」という5つの視点の中から各自が1つの視点を選択し、その視点から「人間」を考えてみる授業です。3年次に行われる「主題別人文社会科学セミナー」へ向け、視野を広げ、基礎的な知識や考え方を身につけることを目的としています。

3) 主題別人文社会科学セミナー

各主題に別れて、担当者の指導のもと、自ら問題を設定し、調査・考察・討論を経て、一定の結論を導きます。自分が選択した主題の観点を中心に、「人間」という存在について、自分の考えを持つことが期待されています。

生命科学基礎

時間割番号	000501		
科目名	生命科学基礎(化学 A)	科目 ID	LA-210401-Z
担当教員	奈良 雅之, 澤野 頼子[NARA MASAYUKI, SAWANO YORIKO]		
開講時期	2024 年度通年	対象年次	2
実務経験のある 教員による授業			
<p>・曜日・時間: オンデマンド配信 前期にて終了予定。</p> <p>・対象学科: 医学科</p> <p>・科目を履修して得られる能力(コンピテンシー): 4-2) 生命現象・自然現象について総合的に理解するための基礎学力・思考力を身につける</p>			
主な講義場所			
オンデマンド配信			
授業の目的、概要等			
1年次の学習だけでは不十分な化学の分野を補うとともに、生命科学に関係するトピックを取り上げることににより、専門教育の土台となる科学的な基礎体力を養います。医歯学の専門に関わる教育の基礎となる科学を総合的に学習することにより、専門教育へ円滑につないでいくことを目的としています。			
授業の到達目標			
生命科学の土台となる化学について、必要に応じて自学自習で理解を深めることができる。 試験時の問題演習を通して、7割程度の理解ができていれば、GPA における「B」に相当する。			
授業方法			
主に講義形式で授業を行います。適宜、演習、ディスカッションなどアクティブラーニングを取り入れます。			
授業内容			
第1週から第10週はクラス分けなしで生命科学に関する生体高分子、反応速度論を学習します。 第11週から第15週は学科別で医学、歯学に関連した化学に関するトピックを学習します。			
成績評価の方法			
評価: 試験 100% ・レポート0%			
その他(授業中の回答状況等も考慮される。)			
再評価: 有 再試験			
成績評価の基準			
「東京医科歯科大学全学共通科目履修規則 別表2」による			
準備学習等についての具体的な指示			
予習: 授業で行う項目について、講義資料(WebClass に掲載)、教科書・参考書などをあらかじめ読んでおく。 復習: 授業で扱った項目について、教科書・参考書で確認し、演習問題などを通じて理解を深める。			
試験の受験資格			
定期試験(考査)・再試験の受験資格: 原則3分の2以上出席			
教科書			
生体分子化学/秋久俊博, 長田洋子 編, 秋久俊博, 長田洋子, 浅田泰男, 石塚盛雄, 小池一男, 神野英毅, 西尾俊幸, 宮澤三雄 著.: 共立出版, 2008 反応速度論/真船文隆, 廣川淳著, 真船, 文隆, 廣川, 淳.: 裳華房, 2017			
参考書			
マクマリー有機化学(下)/JOHN McMURRY/著, 伊東椒/訳者代表, 児玉三明/訳者代表, McMurry, John, 伊東 椒, 児玉: 東京化学同人, 2017 アトキンス生命科学のための物理化学/Peter Atkins, Julio de Paula 著, 稲葉章, 中川敦史 訳.: 東京化学同人, 2008 ライフサイエンス系の高分子化学 新版/宮下 徳治 (編著): 三共出版, 2010 数学いらずの化学反応論: 反応速度の基本概念を理解するために/齋藤勝裕著, 齋藤, 勝裕.: 化学同人, 2009 一般化学/Jerome L. Rosenberg, Lawrence M. Epstein 共著, 一國雅巳 訳, Rosenberg, Jerome Laib, Epstein, Lawrence M., 一國, 雅巳, 1930-, : オーム社, 1995			

履修上の注意事項

生命科学基礎の評価は、生物学、化学の総合評価で行う。前期の定期試験で生物学と化学について行う。試験のいずれか1つでも受験を放棄した場合、履修放棄とみなす。生物学、化学の評価(定期試験)が不合格の場合は、該当する科目について再試験(再評価)を行う。

連絡先(メールアドレス)

奈良 雅之:nara.las@tmd.ac.jp

澤野 頼子:sawano.las@tmd.ac.jp

オフィスアワー

奈良 雅之:毎週水曜日 PM.0:00-PM.2:00(ただし、第 1 水曜日(教授会開催日)は PM.1:00 まで)、毎週木曜日 PM.0:20-PM.1:20 ヒポクラテス 4 階

澤野 頼子:毎週金曜日 PM.0:30-PM.1:20 ヒポクラテス 4 階

時間割番号	000502		
科目名	生命科学基礎(化学B)	科目ID	LA-210402-Z
担当教員	奈良 雅之, 澤野 頼子, 勝又 敏行 [NARA MASAYUKI, SAWANO YORIKO, KATSUMATA TOSHIYUKI]		
開講時期	2024 年度通年	対象年次	2
実務経験のある教員による授業			
<p>・曜日・時間: オンデマンド配信(前期のみで終了予定)</p> <p>・対象学科: 歯学科</p> <p>・科目を履修して得られる能力(コンピテンシー): 4-2) 生命現象・自然現象について総合的に理解するための基礎学力・思考力を身につける</p>			
主な講義場所 オンデマンド配信			
授業の目的、概要等 1年次の学習だけでは不十分な化学の分野を補うとともに、生命科学に関係するトピックを取り上げることににより、専門教育の土台となる科学的な基礎体力を養います。医歯学の専門に関わる教育の基礎となる科学を総合的に学習することにより、専門教育へ円滑につないでいくことを目的としています。			
授業の到達目標 生命科学の土台となる化学について、必要に応じて自学自習で理解を深めることができる。 試験時の問題演習を通して、7割程度の理解ができていれば、GPAにおける「B」に相当する。			
授業方法 主に講義形式で授業を行います。適宜、演習、ディスカッションなどアクティブラーニングを取り入れます。			
授業内容 第1週から第10週はクラス別なしで生命科学に関係する生体高分子、反応速度論を学習します。 第11週から第15週は学科別で医学、歯学に関連した化学に関するトピックを学習します。			
成績評価の方法 評価: 試験 100% ・レポート0% その他(授業中の回答状況等も考慮される。) 再評価: 有 再試験			
成績評価の基準 「東京医科歯科大学全学共通科目履修規則 別表2」による			
準備学習等についての具体的な指示 予習: 授業で行う項目について、講義資料(WebClassに掲載)、教科書・参考書などをあらかじめ読んでおく。 復習: 授業で扱った項目について、教科書・参考書で確認し、演習問題などを通じて理解を深める。			
試験の受験資格 定期試験(考査)・再試験の受験資格: 原則3分の2以上出席			
教科書 生体分子化学/秋久俊博, 長田洋子 編, 秋久俊博, 長田洋子, 浅田泰男, 石塚盛雄, 小池一男, 神野英毅, 西尾俊幸, 宮澤三雄 著.: 共立出版, 2008 反応速度論/真船文隆, 廣川淳著, 真船, 文隆, 廣川, 淳.: 裳華房, 2017			
参考書 マクマリー有機化学(下)/JOHN McMURRY/著, 伊東椒/訳者代表, 児玉三明/訳者代表, McMurry, John, 伊東 椒, 児玉: 東京化学同人, 2017 アトキンス生命科学のための物理化学/Peter Atkins, Julio de Paula 著, 稲葉章, 中川敦史 訳.: 東京化学同人, 2008 ライフサイエンス系の高分子化学 新版/宮下 徳治 (編著): 三共出版, 2010 数学いらずの化学反応論: 反応速度の基本概念を理解するために/齋藤勝裕著, 齋藤, 勝裕.: 化学同人, 2009 一般化学/Jerome L. Rosenberg, Lawrence M. Epstein 共著, 一國雅巳 訳, Rosenberg, Jerome Laib, Epstein, Lawrence M., 一國, 雅巳, 1930-.: オーム社, 1995			

履修上の注意事項

生命科学基礎の評価は、生物学、化学の総合評価で行う。前期の定期試験で生物学と化学について行う。試験のいずれか1つでも受験を放棄した場合、履修放棄とみなす。生物学、化学の評価(定期試験)が不合格の場合は、該当する科目について再試験(再評価)を行う。

連絡先(メールアドレス)

奈良 雅之:nara.las@tmd.ac.jp

澤野 頼子:sawano.las@tmd.ac.jp

勝又 敏行:katsumata.las@tmd.ac.jp

オフィスアワー

奈良 雅之:毎週水曜日 PM.0:00-PM.2:00(ただし、第 1 水曜日(教授会開催日)は PM.1:00 まで)、毎週木曜日 PM.0:20-PM.1:20 ヒポクラテス 4 階

澤野 頼子:毎週金曜日 PM.0:30-PM.1:20 ヒポクラテス 4 階

勝又 敏行:毎週金曜日 12:00-13:00 ヒポクラテス 2 階化学実験準備室

時間割番号	000505		
科目名	生命科学基礎(生物 A)	科目 ID	LA-210403-Z
担当教員	伊藤 正則[IITO MASANORI]		
開講時期	2024 年度通年	対象年次	2
実務経験のある教員による授業			
	<ul style="list-style-type: none"> ・曜日・時間: 木曜1限 ・対象学科: 医学科・歯学科 ・科目を履修して得られる能力(コンピテンシー) 4-2) 生命現象・自然現象について総合的に理解するための基礎学力・思考力を身につける 		
授業の目的、概要等	1 年次の学習だけでは不十分な生物学の分野を補うとともに、生命科学のトピックスを取り上げるにより、専門教育の基礎となる部分を学習する。また、医歯学の専門と関わる教育の基礎部分を総合的に理解することにより、専門教育へ円滑につないでいくことを目的とする。		
授業の到達目標	1) 医歯学専門教育の基礎生命科学のトピックスについて理解し、説明することができる。 2) 生命科学の基礎的な分野について必要に応じて自学自習を行い、理解を深めることができる。		
授業方法	基本的には講義形式による。アクティブラーニングとして、毎回、コメントシートに疑問点などを記述し、提出する。次の講義においてこの問題点に対する答えを教員が説明する。また、課題を出す。その課題に対する答えをレポートにまとめ提出する。数名の学生を指名し、指名された学生は板書などの方法を用いて答を導いた過程を含めて発表する。		
授業内容	生命科学のトピックスを取り上げ、基本的な知識とその知識の発展性・応用性を説明する。		
成績評価の方法	評価: 試験による。生物学と化学の総合的評価による。前期の定期試験では生物学、後期の定期試験では化学の試験を行う。 試験のいずれか1つでも受験を放棄した場合、履修放棄とみなす。 再評価: 有		
成績評価の基準	「東京医科歯科大学全学共通科目履修規則 別表2」による。		
準備学習等についての具体的な指示	講義の内容と関連のある書物を読むこと。アクティブラーニングとして、質問などをリアクションペーパーに記入すること。次週の授業で教員が質問に答える。		
試験の受験資格	2/3 以上出席したものに試験の受験資格を与える。		
教科書	必要に応じて参考資料を配布する。		
参考書	ドムヤンの学習と行動の原理／マイケル・ドムヤン著, Domjan, Michael, 漆原, 宏次, 坂野, 雄二, : 北大路書房, 2022 メイザーの学習と行動 : 日本語版／ジェームズ・E.メイザー 著, 磯博行, 坂上貴之, 川合伸幸 訳, Mazur, James E., 1951-, 磯, 博行, 1948-, 坂上, 貴之, 1953-, 川合, 伸幸, : 二瓶社, 2008		
連絡先(メールアドレス)	itohmt.las@tmd.ac.jp		
オフィスアワー	毎週月曜日 AM.10:00-PM.2:00 ヒポクラテスホール4階生物学教員研究室		

主題別教育(医学科・歯学科)について

【目的】

皆さんの多くは高校時代にコロナ禍を経験し、進路や将来を考える中で、「自分とは何か」という問いに向き合った方も少なくないのでしょうか。自分とはどのような人間なのか、何をしてどのように生きてきたのか、何が好きで何をしたいのか。また、どのような進路を選択し、今後どのように生きたいのか。さらに、このコロナ禍が私たちの生活を一変させたのは、家族に始まり学校に続く「集合体」、つまり「密」を形成して生活してきた人類の歩み自体を覆すものだったからでしょう。

しかし、人類の歩みは、この「人間とは何か」という疑問の連続であったのかもしれませんが。偉大な先人達は、「人間」の解明にあらゆる観点からいどみ、説明を試みてきました。それらは、「知」として蓄積され、私たちがさらなる思索へと導いてくれます。

東京医科歯科大学では、「主題別教育」という科目において、皆さんにこの「人間」という存在について、学び思考し、また自分の知見をまとめる授業をもうけています。人間を生物的また社会的存在たらしめている要素を、「文化」「生命」「言語」「制度」「時間」という5つの視点にし、そこから考えてみようという取り組みです。

1年次および2年次には、その準備として、視野を広げ、基礎的な知識や考え方を身につけます。ゴールは、3年次に行う「主題別人文社会科学セミナー」です。このセミナーでは、各主題に分かれて、担当者の指導のもと、自ら問題を設定し、調査・考察・討論を経て、一定の結論を導出します

セミナー修了時に、皆さん自身が、自分が選択した主題の観点を中心に、「人間」という存在について、自分なりの考えを持つことになることが目的です。もちろん、それは三年間もしくはこれまでの人生における段階的な「結論」であり、絶対ではないはずです。皆さんは今後の人生で学びを深め、また問題を与えられるたび、「人間とは何か」という疑問を持ち続けましょう。換言すれば、人間というものに向き合わざるを得ない職業に就かれる皆さんが、その問いを描かなくなった時、皆さんの歩みも学びも終わるのかもしれませんが。

その問いへの「結論」は段階や状況によって変わるでしょう。しかし、自らの疑問に向き合い、考え、調べ、学び、時に意見を交換し、結論を導くという「方法」をこの授業で身につけた人は、その各段階において、思索を深め、さらに「新たな問い」に向き合うことに楽しさや充実感を覚えるはずです。

この「喜び」は、将来、「人間」そのものを職業とする医学・歯学系の皆さんを支える、大きな力となるはずです。

【5つの主題】

文化と人間 生命と人間 言語と人間 制度と人間 時間と人間

各主題の目的は次の通りです。

文化と人間	文化とは、人間が創造し習得する精神的な価値の総体である。また、文化とは象徴的記号の体系である。そのような文化を理解することによって、人間の本質を捉えようとするのが目的である。
生命と人間	人間を含むあらゆる生物には生命が宿っている。医療はその生命と常に向き合わなければならない。その生命の多様な現象と、それに対する人間の様々な認識のありようを理解することが目的である。
言語と人間	人間と動物とを区別する最大の要素は言語の使用にある。人間は言語によって、自らの世界を構築してきた。その言語に関する様々な事象を理解することによって、人間の本質を捉えようとするのが目的である。
制度と人間	社会的生物である人間は、様々な制度に取り巻かれて生きている。その制度を相対的に理解することと、制度の構造を分析することによって、人間のありようを理解することが目的である。
時間と人間	人間は時間的存在であり、時間的拘束のもとに生きている。時間を相対的に理解し、その構造を明らかにすることによって、人間存在の本質を理解することが目的である。

上の5つの主題の中から、1つを選択します。

3年次の「主題別人文社会科学セミナー」は、この主題に分かれて開講されます。各セミナーは、1年次の人文社会科学科目の「主題に関連の深い科目」の担当者が担当する予定です（この1年次人文社会科学の「主題に関連の深い科目」については、次の【各学年の履修について】で説明します）。

どの主題に進むかを決定するのは、2年進級時です。1年生の2月に「希望調査」をし、希望を考慮しながら振り分けます。

1年生の間に、色々な科目を履修しながら、自分がどの主題を選択するかを考えておいて下さい。

【各学年の履修について】

1年生：基盤の形成

必修科目・必修選択科目・自由選択科目などで、さまざまな分野の科目が開講されています。それらに取り組むことにより、ある学問分野における基礎的な知識や、科学的な思考方法を身につけます。

同時に、人間に関する根源的な問いに対して、これまで人間自身がどのようにアプローチし、どのように理論化してきたのかということをお学びます。そして、「問いの継続と発展」という学問のありようを理解します。

1年生は、3年生のセミナーに向けて基礎体力を養いながら、自分がどの主題に進むかを考える期間です。

特に、人文社会科学科目には、「主題に関連の深い科目」が設けられています（下表）。自分が進むかもしれないと思う主題については、その「主題に関連の深い科目」の中にある科目を、積極的に履修しておくことをお勧めします。

各主題に関連の深い科目は次の通りです。授業内容については、それぞれのシラバスを参照して下さい。

主題	関連の深い科目
文化と人間	文化人類学、歴史学、社会学
生命と人間	哲学、倫理学、宗教学
言語と人間	文学、哲学、文化人類学
時間と人間	歴史学、社会思想史、社会学
制度と人間	政治学、法学、社会科学特論

2・3年生前期：主題別選択科目—視点の拡充—

2・3年生では、前期の木曜日午前中に、「主題別選択科目」が開講されます。ただし、2年生（2022年度入学）はカリキュラム改編の影響でオンデマンド配信で受講することになります。

「主題別選択科目」とは、主題について考察できる、様々な学問分野にまたがった複合的な内容の選択科目です。各科目とも、50分間の授業が7回行われます。具体的には、各主題において、下表のような科目が開講される予定です。

2年前期と3年前期の前半8回、後半7回にそれぞれ1科目ずつ履修します。自分が選択した主題の「主題別選択科目」の中から2科目以上を履修することが望ましいです。

ただし、同一教員の科目を2回以上選択することはできません。前半8回と後半7回、合計2科目を履修して、1単位取得となります。

(例) 「言語と人間」を選択した学生

→ 3年前期の前半8回 「生物間のコミュニケーション」履修

〃 後半7回 「人体・医療の物理」履修

(この2科目で1単位取得)

主題	主題別選択科目（2024年度開講）	
	前期前半 8回（50分×8回）	前期後半 7回（50分×7回）
文化と人間	小説の言語と演劇の言語(木谷) 現代社会と時間（飯田） 外国につながる多様な人々と医療(伴野) 医療行動経済学における患者の意思決定（鶴田） 医歯系のための物理（檜枝） 物理数学演習（越野） 科学と疑似科学の境界（奈良） 食品の科学（澤野） 生命科学と社会（栗田）	視覚情報と言語(木谷) ドロモロジーと人間(飯田) 外国につながる多様な人々と教育（伴野） 医療行動経済学における医療者の意思決定（鶴田） タンパク質科学の光と影（奈良） 科学的な正しさとは何か（栗田）
生命と人間	医療の社会学（藤井） 外国につながる多様な人々と医療(伴野) 発がん和確率過程（中林） 医歯系のための物理（檜枝） 物理数学演習（越野） 食品の科学（澤野） 生物の中の糖（勝又） 生物間のコミュニケーション（伊藤） 生命科学と社会（栗田） 生命科学と技術（仁科他）	数理で理解する発がん（中林） 人体・医療の物理（檜枝） タンパク質科学の光と影（奈良） 植物の科学（澤野） 宇宙生物学入門（本田） 環境への適応（伊藤） 科学的な正しさとは何か（栗田） 生命科学と医学（仁科他）
言語と人間	外国につながる多様な人々と医療(伴野) 生物間のコミュニケーション（伊藤）	民主主義を再考する（藤井） 外国につながる多様な人々と教育（伴野） 人体・医療の物理（檜枝） 微分方程式演習（越野）
制度と人間	現代社会と時間（飯田） 医療の社会学（藤井） 外国につながる多様な人々と医療(伴野) 医療行動経済学における患者の意思決定（鶴田） 科学と疑似科学の境界（奈良） 生命科学と社会（栗田）	ドロモロジーと人間(飯田) 民主主義を再考する（藤井） 外国につながる多様な人々と教育（伴野） 医療行動経済学における医療者の意思決定（鶴田） 人体・医療の物理（檜枝） 微分方程式演習（越野） 危険物の科学（勝又） 科学的な正しさとは何か（栗田）
時間と人間	医療の社会学（藤井） 発がん和確率過程（中林） 医歯系のための物理（檜枝） 食品の科学（澤野）	民主主義を再考する（藤井） 数理で理解する発がん（中林） 微分方程式演習（越野） タンパク質科学の光と影（奈良） 植物の科学（澤野） 環境への適応（伊藤）

また、3年次に行われる主題別人文社会科学セミナーの担当者から、2年生の間に取り組むべき課題が提示される場合があります。2年生は、「主題別選択科目」を受講し、同時にその課題に取り組みながら、主題に関する視点の拡充をめざします。

3年生：主題別人文社会科学セミナー—思考の深化—

3年生では、主題ごとに、セミナーを受講します。

各主題の学生30人を、10人ずつのグループA・B・Cに分けます。セミナーは、このグループごとに、7回ずつ行われます。セミナーを担当する教員は、1年次人文社会科学の「主題に関連の深い科目」の教員が担当する予定です。

セミナーと並行して、「医療と法」および「医療と社会」という二つの講義科目が7回ずつ開講されます。グループごとに「セミナー」「医療と法」「医療と社会」を7回ずつ受講します。そして、学年の最後に開講される「総括セミナー」において、主題に関する自らの取り組みをレポートにまとめます。「総括セミナー」は、主題ごとに30人全員が参加し、討論を経てレポート執筆に取り組みます。

グループ (各10人)	前 期		後 期	
	前半7回	後半7回	前半7回	後半7回
グループA	セミナー	医療と社会	医療と法	総括セミナー (セミナー論文 執筆)
グループB	医療と法	セミナー	医療と社会	
グループC	医療と社会	医療と法	セミナー	

1年生において基礎力を身に付け、自ら問いを見出す意識を養い、2年生「主題別選択科目」において視野を広げてきました。3年生「主題別人文社会科学セミナー」では、それらを前提にして、問題を設定し結論の導出を目指します。

問題は、自らの興味や関心にもとづいて、担当教員のアドバイスを受けながら、学生それぞれが設定します。その問題について、調査や考察を行い、またその結果を他の受講生と共有して、改善点を指摘しあいながら結論を導き出すのが「セミナー」です。そして、これらを集大成するのが、「総括セミナー（セミナー論文執筆）」です。

「総括セミナー（セミナー論文執筆）」がこの主題別教育のゴール地点となります。

「総括セミナー（セミナー論文執筆）」までの予定

4月4日（木）：各主題でオリエンテーション。

担当者より、セミナー計画・日程・セミナー論文の問題設定の仕方などについて説明。

4月4日（木）～10月31日（木）：セミナーと講義

11月14日（木）～2024年1月16日（木）：総括セミナー

1月30日（木）：提出締切（予定）

【今後の予定】

2年生 4月～7月 「主題別選択Ⅰ」受講 オンデマンド

3年生 4月～7月 「主題別選択Ⅱ」受講

4月～3月 「主題別人文社会科学セミナー」受講

【成績・評価について】

主題別選択Ⅰ・Ⅱ 前半と後半をあわせてそれぞれ1単位。

原則としてレポート(80点)、授業への参加度(20点)で評価。

(筆記試験で評価する場合に、その旨を周知する。)

ただし、レポートの代替として、授業の最終日に試験を実施することがある。

主題別人文社会科学セミナーと講義 あわせて2単位

原則として講義における試験と総括セミナーにおけるレポート(80点)、授業への参加度(20点)で評価。

主題別選択 I

時間割番号	000604		
科目名	主題別選択 I (科学と疑似科学の境界)	科目 ID	LA-210521-Z
担当教員	奈良 雅之[NARA MASAYUKI]		
開講時期	2024 年度前期	対象年次	2
実務経験のある教員による授業			
<p>・曜日・時間: 木曜2限</p> <p>・対象学科: 医学科・歯学科</p> <p>・科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):</p> <p>1-2)社会制度や仕組みについて基本を理解する</p> <p>1-10) 現代社会における科学の責任を意識できるようになる</p> <p>4-2) 生命現象・自然現象について総合的に理解するための基礎学力・思考力を身につける</p>			
<p>授業の目的、概要等</p> <p>巷には「マイナスイオン」、「パワーストーン」、「活性水素水」「ホメオパシー」など科学的な根拠がないもの、曖昧なもので溢れています。大学生の科学的な知識があれば、このようなニセ科学(疑似科学)に属するものには絶対だまされるはずはないと過信しがちですが、科学とニセ科学の間に明確な境界線があるわけではなく、白黒がはっきりつかないことがしばしばです。この授業では、社会問題としてインパクトの強かった疑似科学のトピックをいくつか選び、科学と疑似科学のグレーゾーンについて理解を深めます。受講者にははできるだけ授業に参加できるように、発言、発表する機会を設けたいと思います。</p>			
<p>授業の到達目標</p> <p>授業の関連したテーマを見つけて、そのテーマの基づいて理解を深める。</p> <p>2000 字以上のレポートとしてまとめられることが、GPA における「B」に相当する。</p>			
<p>授業方法</p> <p>講義形式を予定していますが、履修人数が少ない場合は、希望に応じて、セミナー形式に変更することができます。履修人数が多い場合にも、文献や指定課題について事前に調べてディスカッションするなど、アクティブラーニングを取り入れます。</p>			
<p>授業内容</p> <p>社会問題としてインパクトの強かった疑似科学のトピックをいくつか選び、科学と疑似科学のグレーゾーンについて理解を深めます。科学的な側面から基礎事項を確認するとともに、文化、制度の面からも考えていきます。</p>			
<p>成績評価の方法</p> <p>評価: 試験0%・レポート80%</p> <p>その他20%(授業への参加度・授業中の回答状況)</p> <p>再評価: 有</p> <p>授業で習得したことをレポートにまとめることを重視します。</p>			
<p>成績評価の基準</p> <p>「東京医科歯科大学全学共通科目履修規則 別表2」による</p>			
<p>準備学習等についての具体的な指示</p> <p>予習: 配付資料、関連資料に目を通してください。</p> <p>復習: 興味のある項目について、文献を調べてください。</p>			
<p>試験の受験資格</p> <p>・定期試験・再試験の受験資格: 原則3分の2以上出席 (レポートでもって、定期試験・再試験の代替とする。)</p>			
<p>参考書</p> <p>嘘と絶望の生命科学／榎木英介 著, : 文藝春秋, 2014</p> <p>メディア・バイアス あやしい健康情報とニセ科学／松永和紀 著, : 名古屋市鶴舞中央図書館点字文庫, 2010</p> <p>科学と人間の不協和音／池内了 [著], : 角川書店, 2012</p> <p>活性酸素／高柳 輝夫 編, 大坂 武男 編, 大坂 武男 [ほか] 共著, 日本化学会 監修, : 丸善</p> <p>博士漂流時代 : 「余った博士」はどうか?／榎木英介 [著], : ディスカヴァー・トゥエンティワン, 2010</p> <p>水素水とサビない身体／太田成男 著, : 小学館, 2013</p> <p>疑似科学入門／池内 了 著, : 岩波書店</p> <p>なぜ疑似科学が社会を動かすのか : ヒトはあやしげな理論に騙されたがる／石川幹人著, 石川, 幹人, : PHP 研究所, 2016</p>			
<p>連絡先(メールアドレス)</p> <p>nara.las@tmd.ac.jp</p>			
<p>オフィスアワー</p> <p>毎週水曜日 PM.0:00-PM.2:00(ただし、第 1 水曜日(教授会開催日)は PM.1:00 まで)、毎週木曜日 PM.0:20-PM.1:20 ヒポクラテス 4 階</p>			

時間割番号	000611		
科目名	主題別選択 I (食品の科学)	科目 ID	LA-210523-Z
担当教員	澤野 頼子[SAWANO YORIKO]		
開講時期	2024 年度前期	対象年次	2
実務経験のある教員による授業			
<p>対象学科: 医学科・歯学科</p> <p>科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):</p> <p>別表1-3)人間の歴史的営みを理解する</p> <p>別表2-1)自然現象を科学的に探究するための方法論を知る。</p> <p>別表2-4)自己問題提起・解決型の学習方法を身につける</p>			
<p>主な講義場所</p> <p>遠隔授業(非同期型)</p>			
<p>授業の目的、概要等</p> <p>食品は私たちの健康や生命を維持するために欠かすことのできない大切なものである。人間にとって食品とは、身体の形成やエネルギー供給源として働く「栄養素」を与えるだけのものではない。「おいしさ」や「安全性」を兼ね備え、健康の維持や疾病の予防に有効な「機能性(生体調節機能)」をもたらすものでもある。そして、「食生活」、「食文化」という言葉が表すように、食は人類の進化の歴史の中で、生活環境や文化と密接に関連し、変遷を遂げてきた。本授業では、食の歴史的背景、食品成分の化学的性質を学び、食品の様々な側面についての理解を深めることを目的とする。</p>			
<p>授業の到達目標</p> <p>1)講義、PBL・課題発表により食品を文化的、歴史的、および科学的側面からとらえ、自分の考えをレポートにまとめる。GPA における「B」(本試験合格レベル)の条件は、上記到達目標を概ね達成できたこととする。</p>			
<p>授業方法</p> <p>講義形式およびアクティブラーニング形式(PBL、課題発表など)で行う。</p>			
<p>授業内容</p> <p>食の歴史的背景および食品成分の化学的性質について学ぶ。</p>			
<p>成績評価の方法</p> <p>評価 : 試験 0% ・ レポート 75% ・ 授業への参加度および PBL・課題発表 25%</p> <p>再評価: 有</p>			
<p>成績評価の基準</p> <p>「東京医科歯科大学全学共通科目履修規則 別表2」による</p>			
<p>準備学習等についての具体的な指示</p> <p>講義資料(WebClass に掲載)に目を通しておく。</p> <p>授業で扱った事項について、参考書やインターネット等により知識の拡充・整理を行い、自分なりの考えをまとめる。</p>			
<p>試験の受験資格</p> <p>定期試験・再試験の受験資格:原則3分の2以上出席(各回の講義動画の視聴および WebClass への課題(リアクションペーパー)提出の双方により出席確認を行う)</p> <p>(レポートでもって、定期試験・再試験の代替とする。)</p>			
<p>参考書</p> <p>食品の科学/上野川修一, 田之倉優 編.; 東京化学同人, 2005</p> <p>食品学 : 食品成分と機能性 第2版/久保田紀久枝, 森光康次郎編,久保田, 紀久枝,森光, 康次郎.; 東京化学同人, 2021</p> <p>ニューフードサイエンス/鮫島邦彦, 高橋史生 編著,鮫島, 邦彦, 1938-,高橋, 史生.; 三共出版, 2005</p> <p>健康と食生活/吉田勉 編著,吉田, 勉, 1927-.; 学文社, 2016</p> <p>パソコンで学ぶ食品化学 : 目で見える食品成分とその変化/高野克己, 渡部俊弘編著,高野, 克己,渡部, 俊弘.; 三共出版, 2005</p> <p>健康と調理のサイエンス : 調理科学と健康の接点/大越ひろ, 品川弘子 編著,渡辺敦子, 大須賀彰子, 藤井恵子, 高橋智子, 飯田文子 著.; 学文社, 2017</p>			
<p>連絡先(メールアドレス)</p> <p>澤野 頼子:sawano.las@tmd.ac.jp</p>			
<p>オフィスアワー</p> <p>澤野 頼子:毎週金曜日 PM.0:30-PM.1:20 ヒポクラテス 4 階</p>			

時間割番号	000614		
科目名	主題別選択 I (生物間のコミュニケーション)	科目 ID	LA-210529-Z
担当教員	伊藤 正則[IITO MASANORI]		
開講時期	2024 年度前期	対象年次	2
実務経験のある 教員による授業			
<ul style="list-style-type: none"> ・曜日・時間: 木曜 2 限 ・対象学科: 医学科・歯学科 ・科目を履修して得られる能力(コンピテンシー) 別表 1-1)言語を通じた人間の創造的営みを理解する。 別表 2-4)自己問題提起・解決型の学習方法を身につける。 			
授業の目的、概要等			
この授業の目的は次の1)~4)である。			
1)生物間におけるコミュニケーションの方法(ヒトによる言語を含む)とその制御メカニズムを理解する。			
2)この分野における研究の現状を理解する。			
3)基本的な知識を活用して論理的に考え、その考えを解り易く説明する技術を向上させる。			
4)研究テーマと目的を設定し、目的を達成するための実験を立案する技術を習得する。			
授業の到達目標			
1)生物間におけるコミュニケーションの方法、その制御メカニズム、この分野における研究の現状を説明することができる。			
2)基本的な知識を活用して論理的に考え、その考えを解り易く説明することができる。			
3)研究テーマと目的を設定し、目的を達成するための実験を立案することができる。			
授業方法			
講義形式で行う。ただし、履修者の希望によってはセミナー形式等で行う。アクティブラーニングとして、毎回、コメントシートに疑問点などを書き、提出する。自身でテーマを見つけ、レポートを作成する。			
授業内容			
ヒトによる言語等の生物間におけるコミュニケーションの方法とその制御メカニズムを説明する。主に、最近の研究論文を教材として用いて、発想から目的の設定、目的を達成するための実験計画の立案、結果を整理する方法及び考察での論理展開を重視して説明する。			
成績評価の方法			
評価:試験 0%・レポート 80%・授業への参加度 20%			
再評価:有			
成績評価の基準			
「東京医科歯科大学全学共通科目履修規則 別表 2」による。			
準備学習等についての具体的な指示			
予習では予め配布した参考資料を読んでおくこと。復習では授業内容を参考にして、研究テーマを設定し、研究目的を達成するための実験計画を立案したレポートを提出する。			
試験の受験資格			
2/3 以上出席したものにレポートを提出することができる資格を与える。			
教科書			
必要に応じて参考資料を配布する。			
参考書			
脳とホルモンの行動学：行動神経内分泌学への招待／近藤保彦 [ほか] 編,近藤, 保彦,小川, 園子,菊水, 健史,山田,一夫,富原, 一哉.;西村書店, 2010			
化学受容の科学：匂い・味・フェロモン分子から行動まで／東原和成 編,東原, 和成, 1966-.;化学同人, 2012			
連絡先(メールアドレス)			
伊藤 正則:itohmt.las@tmd.ac.jp			
オフィスアワー			
伊藤 正則:毎週月曜日 AM.10:00-PM.2:00 ヒポクラテスホール4階生物学教員研究室			

時間割番号	000627						
科目名	主題別選択 I (危険物の科学)	科目 ID	LA-210526-Z				
担当教員	勝又 敏行[KATSUMATA TOSHIYUKI]						
開講時期	2024 年度前期	対象年次	2				
実務経験のある 教員による授業							
<p>曜日・時間:木曜日 2限 対象学科:医学科、歯学科 科目を履修して得られる能力(コンピテンシー): 別表1-2)社会制度や仕組みについての基本を理解する 別表1-10)現代社会における科学の責任を意識できるようになる</p>							
授業の目的、概要等 化学物質を扱うために、安全や環境保護など様々な理由から法による規制が行われている。その中で火災予防を目的として危険物が消防法により規定され、その取り扱いの監督者には資格が必要となる。危険物の化学的性質やその火災事例、消火法などを講義形式で紹介していく。最後にグループ討論を行い安全について議論してもらう。							
授業の到達目標 危険物の安全な取扱方法を理解し、レポートにまとめることができる。 GPA における「B」の条件は、上記到達目標を概ね達成できたこととする。							
授業計画							
回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1	5/30	10:05- 10:55	遠隔授業(同期型)	化学物質と法律	化学物質と法律について	勝又 敏行	化学物質と法律について理解する。講義による。出席 2/3 以上
2	6/13	10:05- 10:55	遠隔授業(同期型)	燃焼とは何か	燃焼とは何かについて	勝又 敏行	燃焼とは何かについて理解する。講義による。出席 2/3 以上
3	6/20	10:05- 10:55	遠隔授業(同期型)	火災と消火	火災と消火について	勝又 敏行	火災と消火について理解する。講義による。出席 2/3 以上
4	6/27	10:05- 10:55	遠隔授業(同期型)	危険物第1~3 類	危険物第1~3 類について	勝又 敏行	危険物第1~3 類について理解する。講義による。出席 2/3 以上
5	7/4	10:05- 10:55	遠隔授業(同期型)	危険物第4~6類	危険物第4~6類について	勝又 敏行	危険物第4~6 類について理解する。講義による。出席 2/3 以上
6	7/11	10:05- 10:55	遠隔授業(同期型)	ディスカッション	ディスカッション	勝又 敏行	化学物質取り扱いについてグループでのディス

							カッションを行う。アクティブラーニング、出席 2/3 以上
7	7/18	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	プレゼンテーション	プレゼンテーション	勝又 敏行	ディスカッションをしたくないようについてプレゼンテーションを行う。アクティブラーニング、出席 2/3 以上

授業方法

講義形式一部アクティブラーニングを取り入れる。

授業内容

1. 関係法令
2. 危険物とは何か
3. 消火法について
4. 第1類～第2類の性質、事故事例等
5. 第3類～第4類の性質、事故事例等
6. 第5類～第6類の性質、事故事例等
7. グループ討論

成績評価の方法

評価:試験 0%、レポート 50%、出席、授業への参加度(グループ討論などを含む)等 50%
レポートの内容および授業への参加度を考慮し、以上の通りとする。

成績評価の基準

「東京医科歯科大学全学共通科目履修規則 別表2」による

準備学習等についての具体的な指示

講義で興味を持った項目について調べ、次の授業に臨んでください。

参考書

基礎火災現象原論／James G.Quintiere 著,大宮喜文,若月薫 訳:共立出版,2009

連絡先(メールアドレス)

勝又 敏行:katsumata.las@tmd.ac.jp

オフィスアワー

勝又 敏行:毎週金曜日 12:00-13:00 ヒポクラテス 2 階化学実験準備室

時間割番号	000636																																																		
科目名	主題別選択 I (人体・医療の物理)	科目 ID	LA-210518-Z																																																
担当教員	檜枝 光憲[HIEDA MITSUNORI]																																																		
開講時期	2024 年度前期	対象年次	2																																																
実務経験のある 教員による授業																																																			
<p>曜日・時間: 木曜2限</p> <p>科目を履修して得られる能力(コンピテンシー): 別表2-1) 別表2-2) 別表2-4) 別表4-2)</p>																																																			
<p>授業の目的、概要等</p> <p>生命も含め物質現象は物理学の原理と大いに関係しています。例えば人体の動きや歯の矯正治療は力学、血流の流れは流体力学、また体内に取り込み消費するエネルギーは熱力学の原理に従っています。また、X 線、MRI、重粒子線治療など多くの現代医療測定技術は物理学の成果です。本授業は講義形式で進め、人体や医歯学に関係した物理を学んでいきます。</p>																																																			
<p>授業の到達目標</p> <p>人体・医療に関係した物理を習得する。</p> <p>各授業で設定したテーマについて演習(小レポート)を実施するのでそれらについて解答し、総合点(レポート+参加度)で合格点以上をとること。</p> <p>総合点 70~80 点を B 評価とする。</p>																																																			
<p>授業計画</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>日付</th> <th>時刻</th> <th>講義室</th> <th>授業題目</th> <th>担当教員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>5/30</td> <td>10:05-10:55</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>力学と人体・医療</td> <td>檜枝 光憲</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>6/13</td> <td>10:05-10:55</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>流体と人体・医療</td> <td>檜枝 光憲</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>6/20</td> <td>10:05-10:55</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>熱と人体・医療</td> <td>檜枝 光憲</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>6/27</td> <td>10:05-10:55</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>音と人体・医療</td> <td>檜枝 光憲</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>7/4</td> <td>10:05-10:55</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>光と人体・医療</td> <td>檜枝 光憲</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>7/11</td> <td>10:05-10:55</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>磁気と人体・医療</td> <td>檜枝 光憲</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>7/18</td> <td>10:05-10:55</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>放射線と人体・医療</td> <td>檜枝 光憲</td> </tr> </tbody> </table>				回	日付	時刻	講義室	授業題目	担当教員	1	5/30	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	力学と人体・医療	檜枝 光憲	2	6/13	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	流体と人体・医療	檜枝 光憲	3	6/20	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	熱と人体・医療	檜枝 光憲	4	6/27	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	音と人体・医療	檜枝 光憲	5	7/4	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	光と人体・医療	檜枝 光憲	6	7/11	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	磁気と人体・医療	檜枝 光憲	7	7/18	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	放射線と人体・医療	檜枝 光憲
回	日付	時刻	講義室	授業題目	担当教員																																														
1	5/30	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	力学と人体・医療	檜枝 光憲																																														
2	6/13	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	流体と人体・医療	檜枝 光憲																																														
3	6/20	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	熱と人体・医療	檜枝 光憲																																														
4	6/27	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	音と人体・医療	檜枝 光憲																																														
5	7/4	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	光と人体・医療	檜枝 光憲																																														
6	7/11	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	磁気と人体・医療	檜枝 光憲																																														
7	7/18	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	放射線と人体・医療	檜枝 光憲																																														
<p>授業方法</p> <p>講義と演習</p>																																																			
<p>授業内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 力学と人体・医療 2. 流体と人体・医療 3. 熱と人体・医療 4. 音と人体・医療 5. 光と人体・医療 6. 磁気と人体・医療 7. 放射線と人体・医療 																																																			
<p>成績評価の方法</p> <p>授業の到達目標の達成度を主に授業毎に提出してもらった演習内容(小レポート)によって評価する。</p> <p>評価 : レポート 80 % その他(授業の参加度) 20%</p> <p>再評価: 有</p>																																																			
<p>成績評価の基準</p> <p>「東京医科歯科大学全学共通科目履修規則 別表2」による</p>																																																			
<p>準備学習等についての具体的な指示</p> <p>予習として関連の参考書や他の関連図書を探して読むこと。</p>																																																			

試験の受験資格 試験は実施しないが、原則 2/3 以上の出席が必要
参考書 生物学と医学のための物理学／Paul Davidovits 著,曾我部正博 監訳,吉村建二郎 編集協力,：共立出版, 2015 物理学入門から医用物理へ：超音波、磁気共鳴、X線理解のために／本間康浩 著,：ブイツーソリューション, 2013 医療系のための物理／佐藤幸一, 藤城敏幸 著,：東京教学社, 2013
履修上の注意事項 原則 2/3 以上の出席が必要。 出欠管理システムより、教員自身が取ると出欠を優先させる。
備考 2019～2022 年度の学生授業アンケートで授業に関する問題点の指摘は特に無かった。
連絡先(メールアドレス) 檜枝 光憲:hieda.las@tmd.ac.jp
オフィスアワー 檜枝 光憲:毎週水曜日 12:30～13:00 ヒポ 3F 教員研究室 3

連携教育(歯学科のみ)

(

時間割番号	000403				
科目名	情報科学演習	科目 ID	LA-210700-Z		
担当教員	中林 潤, 中山 まどか[NAKABAYASHI Junn, NAKAYAMA MADOKA]				
開講時期	2024 年度後期	対象年次	2	単位数	1
実務経験のある 教員による授業					
科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):別表 2-1)					
主な講義場所 オンデマンド講義					
授業の目的、概要等 データの構造を理解し、必要な情報を抽出する技術を身につける。プログラム言語を用いて PC を操作し、データの加工、処理し、適切な統計解析を行うための知識と技術を身につける。					
授業の到達目標 プログラム言語を使って PC を操作し、データを加工、処理して必要な情報を抽出し、適切な統計解析を行えるようになる。					
授業方法 Zoom による講義と、自分の PC を使った実習を実施する。					
授業内容 実習用デモデータを使って、実際に PC を使ってデータを加工、処理してデモデータの中から必要な情報を抽出し、統計解析を実施する。					
成績評価の方法 実習の出席、実習に取り組む姿勢、毎回の実習課題、最終レポートの評価を総合的に判断して最終成績とする。					
成績評価の基準 「東京医科歯科大学全学共通科目履修規則別表 2」による。					
準備学習等についての具体的な指示 予習は特に必要ないが、実習中に行う PC の操作については、次回以降確実に出来るようしっかり復習しておくこと。					
試験の受験資格 実習の 2/3 以上に出席し、毎回の課題を提出すること					
連絡先(メールアドレス) 中林 潤:nakab.las@tmd.ac.jp					
オフィスアワー 中林 潤:月曜～金曜 A.M.10:00 - P.M. 05:00 国府台キャンパス 4 階 教官研究室—9					

時間割番号	000404				
科目名	サイエンスPBL	科目ID	LA-210800-Z		
担当教員	奈良 雅之, 中林 潤, 伊藤 正則, 澤野 頼子, 松本 幸久, 勝又 敏行, 栗田 武, 中山 まどか [NARA MASAYUKI, NAKABAYASHI Junn, ITO MASANORI, SAWANO YORIKO, MATSUMOTO YUKIHISA, KATSUMATA TOSHIYUKI, KURITA TAKESHI, NAKAYAMA Madoka]				
開講時期	2024 年度後期	対象年次	2	単位数	1
実務経験のある 教員による授業	<ul style="list-style-type: none"> ・科目を履修して得られる能力(コンピテンシー) 2-2)自然現象を探究するための手法を知る。 2-4)自己問題提起・解決型の学習方法を身につける。 4-3)自然現象を探究するための基本的な手法を身につける。 				
主な講義場所	後日揭示する。				
授業の目的、概要等	<p>「具体的な問題点」を抽出し、「正確な知識」と「知識を根拠とした正確な論理展開」によって問題点を解決する技術を習得する。学生間での話し合いと教員によるアドバイスによって、問題点を解決する方法と正解は必ずしも1つでは無いことを理解すると同時に、自身の学習方法の欠点を理解し、改善する。加えて、簡潔かつ解り易い言葉で説明する技術と建設的な話し合いを行ううえで必要なコミュニケーション技術を習得する。</p>				
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 具体的な問題点を抽出し、「正確な知識」と「知識を根拠とした正確な論理展開」によって問題点を解決することができる。 2. 簡潔かつ解り易い言葉で説明することができる。 3. 建設的な話し合いを行うことができる。 				
授業方法	problem-based learning (PBL)				
授業内容	<p>6 あるいは 7 名から成るグループによる学習で、配布資料(課題シートなど)から問題点を抽出し、自然科学の知識を活用して、問題点を解決することを試みる。具体的には次の1-3の順に行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 配布資料の内容を理解し、学生間での話し合い、具体的な問題点を抽出する。 2. 各自が問題点を解決するために必要な情報を得た後、情報を整理する。 3. 整理した情報を発表し、議論する。発表と議論した内容をまとめることによって、問題点に対する答えを導き出す。 <p>この授業では学生間での話し合いが中心となり、話し合いに参加するためには、明確な目的意識をもった自主的な学習が必要である。</p>				
成績評価の方法	<p>評価は、授業への参加度、グループによる話し合いへの参加、グループごとでの発表会での発表内容、発表会での質問・返答内容、レポートの記述内容による。詳細は第1回目のガイダンスで説明する。</p>				
成績評価の基準	「東京医科歯科大学全学共通科目履修規則 別表2」による。				
準備学習等についての具体的な指示	各自が問題点を解決するために必要な情報を集め、整理しておくこと。情報を集める過程でさらに問題点を見つけること。論理的方法によって問題を解決することを試みる。				

<p>試験の受験資格</p> <p>試験を行わない。</p>
<p>教科書</p> <p>課題シートなどの配布資料。</p>
<p>参考書</p> <p>必要に応じて紹介する。</p>
<p>備考</p> <p>オフィスマワー</p> <p>伊藤正則:毎週月曜日 AM.10:00-PM.2:00 国府台キャンパス・ヒポクラテスホール4階教員研究室 中林潤:月曜～金曜 A.M.10:00 - P.M. 05:00 国府台キャンパス・ヒポクラテスホール 4 階教員研究室 澤野頼子:毎週金曜日 PM.0:00-PM.1:00 国府台キャンパスヒポクラテス 4 階教員研究室 奈良雅之:毎週水曜日 PM.0:00-PM.2:00, 毎週金曜日 PM.0:00-PM.1:00 国府台キャンパスヒポクラテスホール 4 階教員研究室 勝又敏行:毎週金曜日 12:00-13:00 国府台キャンパスヒポクラテス 2 階化学実験準備室 松本幸久:毎週月曜日 PM.4:30-6:00 国府台キャンパスヒポクラテスホール 3 階生物教員実験室</p>
<p>参照ホームページ</p> <p>連絡先(メールアドレス)</p> <p>伊藤正則:itohmt.las@tmd.ac.jp 中林潤:nakab.las@tmd.ac.jp 澤野頼子:sawano.las@tmd.ac.jp 奈良雅之:nara.las@tmd.ac.jp 勝又敏行:katsumata.las@tmd.ac.jp 松本幸久:yukihisa.las@tmd.ac.jp</p>
<p>連絡先(メールアドレス)</p> <p>伊藤 正則:itohmt.las@tmd.ac.jp 中林 潤:nakab.las@tmd.ac.jp 澤野 頼子:sawano.las@tmd.ac.jp 栗田 武:kurita.takeshi@tmd.ac.jp 奈良 雅之:nara.las@tmd.ac.jp 勝又 敏行:katsumata.las@tmd.ac.jp 松本 幸久:yukihisa.las@tmd.ac.jp 中山 まどか:nakayama.madoka@tmd.ac.jp</p>
<p>オフィスマワー</p> <p>伊藤 正則:毎週月曜日 AM.10:00-PM.2:00 ヒポクラテスホール4階生物学教員研究室 中林 潤:月曜～金曜 A.M.10:00 - P.M. 05:00 国府台キャンパス 4 階 教官研究室—9 澤野 頼子:毎週金曜日 PM.0:30-PM.1:20 ヒポクラテス 4 階 栗田 武:毎週水曜日 PM.1:30-PM. 5:00 ヒポクラテスホール (校舎棟) 4 階 教官研究室—2 奈良 雅之:毎週水曜日 PM.0:00-PM.2:00(ただし、第 1 水曜日(教授会開催日)は PM.1:00 まで), 毎週木曜日 PM.0:20-PM.1:20 ヒポクラテス 4 階 勝又 敏行:毎週金曜日 12:00-13:00 ヒポクラテス 2 階化学実験準備室 松本 幸久:毎週月曜日 PM.4:30-6:00 ヒポクラテスホール 3 階生物教員実験室 中山 まどか:前期:火 12:20～13:00 後期:木 12:20～13:00 質問等随時メールで受け付けています。</p>

時間割番号	000405		
科目名	生命科学(人体の生物学)	科目 ID	LA-210900-Z
担当教員	伊藤 正則[ITO MASANORI]		
開講時期	2024 年度前期	対象年次	2
単位数	2		
実務経験のある教員による授業	<ul style="list-style-type: none"> ・対象学科・専攻: 歯学科(旧カリキュラムを履修する学生) ・科目を履修して得られる能力(コンピテンシー): 4-2)生命現象・自然現象について総合的に理解するための基礎学力・思考力を身につける。 		
主な講義場所	後日連絡する。		
授業の目的、概要等	歯学の基盤となる生物学を広く、深く学習し、専門教育へスムーズに繋げることを目的とする。加えて、能動的に学習する姿勢を身につけると同時に、論理的思考力を向上させる。		
授業の到達目標	生命現象の発現制御メカニズムを個体、器官、組織、細胞、分子レベルで説明することができる。		
授業方法	基本的には講義形式で行う。アクティブラーニングとして、毎回コメントシートに疑問点などを書き、提出する。次の講義においてこの疑問点に対する答えを述べる。また、課題を出す。その課題に対する答えをレポートにまとめ提出する。		
授業内容	代表的な生命現象とその制御メカニズムの多様性を学ぶ。		
成績評価の方法	評価: 試験 100% 再評価: 有(再評価での成績は 60 点を上限とする)		
成績評価の基準	「東京医科歯科大学全学共通科目履修規則 別表 2」による。		
準備学習等についての具体的な指示	アクティブラーニングとして、予め授業で使用する資料を WebClass に掲示するので、予習を行うこと。授業内容について質問、意見があれば、コメントシートに書くこと。次回の授業でこの質問、意見に答える。復習では、知識が体系的になるようにノートに整理する。		
試験の受験資格	2/3 以上出席したものに受験資格を与える。		
教科書	はじめの一步の生化学・分子生物学／前野正夫,磯川桂太郎:羊土社, 2016 人体の構造と機能／Marieb, Elaine Nicpon, 1936-,林正, 健二, 1946-,今本, 喜久子, 1943-,遠藤, 健司, 1962-,エレイン N.マリーブ 著,林正健二, 今本喜久子, 遠藤健司, 大島千佳, 小田切陽一, 武田多一, 武田裕子, 竹野ゆかり, 藤本悦子 訳: 医学書院, 2015		
参考書	Molecular biology of the cell／Alberts, Bruce,Johnson, Alexander D.,Lewis, Julian, 1946-2014,Morgan, David Owen, 1958-,Wilson, John, 1944-,Hunt, Tim, 1943-,Bruce Alberts, Alexander Johnson, Julian Lewis, David Morgan, Martin Raff, Keith Roberts, Peter Walter,with problems by John: Garland Science, Taylor and Francis Group, [2015] Essential 細胞生物学／Alberts, Bruce,Bray, Dennis,Hopkin, Karen,中村, 桂子, 1936-,松原, 謙一, 1934-,Bruce Alberts, Dennis Bray, Karen Hopkin, Alexander Johnson, Julian Lewis, Martin Raff, Keith Roberts, Peter Walter 著,中村桂子, 松原謙一 監訳:南江堂, 2011.3 診療・研究にダイレクトにつながる遺伝医学／渡邊, 淳,渡邊淳 著:羊土社, 2017.5 よくわかるゲノム医学 : ヒトゲノムの基本から個別化医療まで／服部, 成介, 1952-,水島-菅野, 純子,菅野, 純夫, 1952-,服部成介, 水島-菅野純子 著,菅野純夫 監修:羊土社, 2016.1:羊土社, 2016		
連絡先(メールアドレス)			

itohmt.las@tmd.ac.jp

オフィスアワー

毎週月曜日 AM.10:00-PM.2:00 ヒポクラテスホール4階生物学教員研究室

時間割番号	000406		
科目名	生命科学(生物物理化学)	科目 ID	LA-211000-Z
担当教員	奈良 雅之, 宇尾 基弘[NARA MASAYUKI, UO MOTOHIRO]		
開講時期	2024 年度前期	対象年次	2
単位数	2		
実務経験のある 教員による授業			
<p>・曜日・時間: オンデマンド配信 旧カリでは火曜日1時限(または1, 2時限)で開講された。</p> <p>・対象学科: 歯学科</p> <p>・科目を履修して得られる能力(コンピテンシー)</p> <p>4-2) 生命現象・自然現象について総合的に理解するための基礎学力・思考力を身につける</p>			
授業の目的、概要等			
<p>1年生の化学(一般化学)で勉強した原子・分子の構造論、化学熱力学をさらに深めることにより、生命現象を物理化学の理論に基づいて理解します。構造化学、化学熱力学全般を奈良が、歯科材料学入門を宇尾が担当することにより、教養部教育から学部教育への「円滑な橋渡し」を心掛けています。講義内容はかなり高度になりますので、受講者は授業にしっかり取り組まないと「大きなギャップ」とも受け止められるかもしれません。</p>			
授業の到達目標			
<p>①量子論の基礎を理解できる。</p> <p>②相平衡、化学平衡、酸化還元平衡を熱力学の原理に基づいて理解できる。</p> <p>③歯科材料学を具体例として、学部で詳しく学ぶ内容と教養部で習う自然科学が深く関わっていることを理解できる。</p> <p>④講義内容に関する演習問題や参考文献を自学自習で取り組むことができる。</p> <p>授業に関連した演習問題で7割理解できるレベルが GPA における「B」に相当する。</p>			
授業方法			
<p>授業は基本的に講義形式で進めますが、適宜、課題問題の演習、答案の発表などアクティブラーニングを取り入れます。</p>			
授業内容			
<p>①ガイダンス 熱力学の原理(復習)</p> <p>②熱力学の原理 開放系の熱力学: 化学ポテンシャル</p> <p>③相平衡①: 相律、溶液の熱力学</p> <p>④相平衡②: 二成分系の状態図の見方、使い方</p> <p>⑤化学平衡: ギブスエネルギーと平衡定数、平衡定数の温度変化</p> <p>⑥原子・分子の構造論① 量子論の原理</p> <p>⑦電気化学①: 電解質、酸化還元反応、電池</p> <p>⑧原子・分子の構造論② 量子論の原理</p> <p>⑨電気化学②: ネルンストの式、標準電極電位、濃淡電池</p> <p>⑩原子・分子の構造論③ 量子論の応用</p> <p>⑪歯科材料学入門①</p> <p>⑫歯科材料学入門②</p> <p>⑬電気化学③: 電気化学ポテンシャル、膜電位・膜平衡</p> <p>⑭原子・分子の構造論④ 量子論の応用</p> <p>⑮生物物理化学のまとめ</p>			
成績評価の方法			
<p>評価: 試験(定期試験)100%・レポート0%</p> <p>その他 (試験のみによる絶対評価で 60 点未満の学生が 1/4 以上出る場合は、相対評価で最終的な評価点をつける。その場合、平均点を 75 点前後に調整するため、授業中の演習、リアクションペーパー等の回答状況を考慮することがある。)</p>			

<p>再評価:有 (再評価方法 再試験)</p> <p>生命科学の基礎となる化学を理解しているかが評価の対象となるので、試験による評価を基本的に重視する。</p>
<p>成績評価の基準</p> <p>「東京医科歯科大学全学共通科目履修規則 別表2」による</p>
<p>準備学習等についての具体的な指示</p> <p>予習:資料・参考書などで該当する箇所に目を通しておく。</p> <p>復習:講義に関連した演習問題を解いて、理解していることを確認する。</p>
<p>試験の受験資格</p> <p>定期試験・再試験の受験資格:原則3分の2以上の出席</p>
<p>教科書</p> <p>化学熱力学／原田義也著,原田, 義也,,:裳華房, 2012</p>
<p>参考書</p> <p>量子化学 : 基礎からのアプローチ／真船文隆 著,:化学同人, 2008</p> <p>化学熱力学(修正版)／原田義也 著,:裳華房, 2002</p> <p>一般化学／Jerome L.Rosenberg, Lawrence M.Epstein 共著,一國雅巳 訳,Rosenberg, Jerome Laib,Epstein, Lawrence M,一國, 雅巳, 1930-,,:オーム社, 1995</p>
<p>他科目との関連</p> <p>1年生の一般化学Dで勉強した化学熱力学を理解していることを前提で、授業は進みます。</p>
<p>連絡先(メールアドレス)</p> <p>奈良 雅之:nara.las@tmd.ac.jp</p> <p>宇尾 基弘:uo.abm@tmd.ac.jp</p>
<p>オフィスアワー</p> <p>奈良 雅之:毎週水曜日 PM.0:00-PM.2:00(ただし、第 1 水曜日(教授会開催日)は PM.1:00 まで), 毎週木曜日 PM.0:20-PM.1:20 ヒポクラテス 4 階</p>

時間割番号	000407		
科目名	人文社会科学総合講義	科目ID	LA-211100-Z
担当教員	木谷 真紀子, BAO MIN[KITANI Makiko, BAO Min]		
開講時期	2024 年度後期	対象年次	2
		単位数	2
実務経験のある 教員による授業			
別表 1-1) 言語を通じた人間の創造的営みを理解する 別表 1-3) 人間の歴史的営みを理解する 別表 1-5) 人間の思考の枠組みを知り、自らの思考を振り返る 別表 1-6) 優れた芸術作品に触れて完成を高める 別表 1-7) 人間の心への理解を高める 別表 1-10) 現代社会における科学の責任を意識できるようになる 別表 3-2) 自らの考えを的確に伝えるための基本的な文章表現能力を身につける			
主な講義場所			
オンデマンドで実施。			
授業の目的、概要等			
<p>歯科医師は歯学・歯科医療の「専門家」であるが、もちろんそれだけではない。患者がたんなる「病人」ではないのと同じである。歯科医師はひとりの「人間」として、やはりひとりの「人間」である患者と出会う。そしてその出会いの時と場所は、たとえそれが診察室の中であり、またそうとは意識されていなくとも、「文化」や「歴史」「社会」によって彩られている。それゆえに、よき歯科医師になる／であるためには、患部・患者を見る／診る目だけでなく、人間・文化・歴史・社会を見る／観る目も、併せ持っていなければならないとされるのである。</p> <p>この授業はそうした人間・文化・歴史・社会を見る／観る目を養うためにある。2名の担当教員がそれぞれに、人間や文化、歴史、また社会について問い、考える視点を提示してゆく。それを受けて自らもまた問い、考えることで、よき歯科医師になる／であるためには欠かせない「もう一つの目」を、自分の中に育んでもらいたい。</p>			
授業の到達目標			
(1) 人間・文化・歴史・社会にあらためて関心を持ち、自ら問うべきこと、考えるべきことを見つけ出す。 (2) 人間・文化・歴史・社会の観点も加えて、自らが目指す「歯科医師」像をより具体的に描き出す。			
授業方法			
授業はオンデマンド形式で行う。折々にドキュメンタリー等の視聴覚資料も用いる。 全体は文学と社会学の教員によるリレー方式をとる。			
授業内容			
第1回 ガイダンス 第2回 震災と文学について(担当:木谷真紀子) 第3回 関東大震災と文学①(木谷真紀子) 第4回 関東大震災と文学②(木谷真紀子) 第5回 東日本大震災と文学①(木谷真紀子) 第6回 東日本大震災と歯科医①(木谷真紀子) 第7回 東日本大震災と歯科医②(木谷真紀子) 第8回 震災と医療従事者について(木谷真紀子) 第9回 中国における医療保障制度の変遷①(担当:包 敏) 第10回 中国における医療保障制度の変遷②(包 敏) 第11回 中国の医療保険制度の体系(包 敏) 第12回 中国における医療保障の格差①(包 敏) 第13回 中国における医療保障の格差②(包 敏) 第14回 中国における口腔産業チェーンおよび消費者ニーズ調査分析(包 敏) 第15回 まとめ(包 敏)			
成績評価の方法			
◇評価:レポート 60% 毎回の授業の視聴履歴、リアクションペーパーを含む毎回の授業内課題 40%			

再評価:有(レポート)
成績評価の基準 「東京医科歯科大学全学共通科目履修規則 別表2」による。
準備学習等についての具体的な指示 専門課程のただ中で行われる授業であるが、そうであるからこそ受講者には、ともしれば今からすでに「専門」へと閉じてゆきかねない自らの視野を、再び開かれたものにするようこの機会を活用してもらいたい。そのためにも、授業に能動的に参加し、そこで提示される問いや視点についてじっくりと考え、それを専門課程で学ぶことと自ら結びつけてゆく姿勢が望まれる。
試験の受験資格 ◇レポートの提出資格:教員 2 名の授業担当分、それぞれにつき 3 分の 2 以上の授業の視聴履歴とリアクションペーパーもしくは授業内課題を提出していること。
教科書 必要な文献・資料はコピーして配布する。その他、授業内で指示。
参考書 参考書等は授業の中で随時紹介する。
履修上の注意事項 1. レポートを提出するには、担当教員 2 名の授業それぞれにつき 3 分の 2 以上の出席が必要となる。 2. 単位を取得するには、2 名の教員のレポート課題に両方とも合格することが必要となる。
備考 授業の視聴履歴と授業内課題の提出によって「出席」とする。 オンデマンド授業は、五月の第二週に全講義回を Web クラス上にアップロードする。 授業を視聴し、期限までに授業内課題を提出のうえ、最終レポートを提出すること。
連絡先(メールアドレス) 木谷 真紀子:makiko.las@tmd.ac.jp BAO MIN:minbao.las@tmd.ac.jp
オフィスアワー 木谷 真紀子:月、金曜 12:20～13:30 管理研究棟 2 階 ※原則的に上記の曜日時間としますが、事前に連絡のある学生には、上記時間外でも対応します。 BAO MIN:水曜日 12:30～13:00 管理研究棟 3 階 研究室

東京医科歯科大学全学共通科目履修規則

〔平成16年4月1日
規則第217号〕

(趣旨)

第1条 東京医科歯科大学における全学に共通する教育科目（以下「全学共通科目」という。）の履修に関しては、東京医科歯科大学学則（平成16年規程第4号。以下「学則」という。）に定めるもののほか、この規則の定めるところによる。

(授業科目の編成)

第2条 全学共通科目における授業科目は、次の4系をもって編成する。

- 自由教育講義系
- 自由教育実習系
- 自由教育セミナー系
- 基礎教育系

(授業科目及び単位数)

第3条 前条の各系に属する授業科目及び修得すべき単位数等は、別表1に定めるとおりとする。

2 前項の授業科目及び修得すべき単位数等は、教養部教授会の意見を聴いて学長が定めるものとする。

(1単位当たりの授業時間)

第4条 学則第36条に定める1単位当たりの授業時間は、次のとおりとする。

- (1) 講義及び演習については、15時間から30時間
- (2) 実験及び実習については、30時間から45時間

2 前項の授業時間の設定においては、次の事項に配慮しなければならない。

- (1) 学習目標を十分に満たすこと
- (2) 履修時間及び自主的学修時間の確保

(履修届)

第5条 学生は、別に定める授業科目の中から、履修しようとする授業科目を所定の期日までに届け出なければならない。

(定期試験)

第6条 履修した授業科目については、試験を行う。

2 前項の規定にかかわらず、実験、実習を伴う授業科目又は試験を行うことが困難な授業科目等で、平常の学修の成果を評価して成績を与えることが適切と認められる場合には、試験によらず、指定した課題についての報告等をもって試験に代えることができる。

3 第1項の試験については、別に定める。

4 試験に合格したときは、所定の単位を与える。

(学習の評価)

第7条 履修した授業科目の成績については、別表2により学習の評価を行う。

2 前項の規定にかかわらず、前条第2項に該当する授業科目のうち、第1項により難しい場合の学習の評価は、別表3により行う。

3 第1項及び第2項の学習の評価に、平常の学修の成果を加味することができる。

4 教養部長は、学習の評価の結果を学生に通知する。

(再履修)

第8条 前条により、「不可」又は「不合格」の評価を得た授業科目については、所定の手続きにより再履修することができる。

(懲戒)

第9条 教養部長は、懲戒に相当すると思われる行為があったときは、学則第58条に定める懲戒の手続きをとるものとする。なお、手続きについては別に定める。

(進級要件)

- 第10条 別表1(1)に定める単位をすべて修得しなければ、第2学年に進級することができない。
- 2 別表1(2)に定める単位をすべて修得しなければ、第3学年に進級することができない。
- 3 別表1(3)に定める単位をすべて修得しなければ、第4学年に進級することができない。
- 4 別表1(4)に定める単位をすべて修得しなければ、卒業することはできない。
- 5 全学共通科目の単位の認定については、教養部教授会の議を経て、教養部長がこれを行う。
- 6 教養部長は、前項の認定の結果について各学部長に通知する。
- 7 2年以内に、別表1(1)に定める単位をすべて修得することができない学生は、特別に考慮すべき事由のない限り、学則第33条第1項第1号に規定する「成業の見込みがない」者として、同条により除籍する。ただし、当該期間には、休学の期間を算入しない。
- 8 前項の場合において、大学は、教授会等における審議を行う前に、除籍の対象となる学生に対し、書面又は口頭による弁明の機会を与えなければならない。ただし、当該学生が、弁明の機会を与えられたにもかかわらず、正当な理由なく欠席し、又は文書を提出しなかった場合は、この権利を放棄したものとみなす。
- 9 第7項の場合において、教授会等における審議の後、当該学生から不服が申立てられた場合で、教養部長が再審議の必要性があると判断したときは、教養部長は、教務委員会等に再度審議を行わせるものとする。

(歯学部口腔保健学科編入学生の履修)

第11条 学則第18条及び第18条の2に定める歯学部口腔保健学科編入学生の全学共通科目に係る履修については、別に定める。

(補則)

第12条 この規則に定めるもののほか、全学共通科目の履修に関する必要な事項は、教養部教授会が別に定める。

附 則

- 1 この規則は、平成16年4月1日から施行する。
- 2 国立大学法人の成立前の東京医科歯科大学に平成16年3月31日に在学し、引き続き本学の在学者となったもの(以下「在学者」という。)及び平成16年4月1日以後在学者の属する学年に再入学、転入学及び編入学する者の教育課程の履修については、この規則の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則(平成18年3月31日規則第10号)

- 1 この規則は、平成18年4月1日から施行する。
- 2 平成18年3月31日において、現に本学に在学する者(以下「在学者」という。)および平成18年4月1日以降に在学者の属する学年に再入学、転入学又は編入学する者については、改正後の別表1の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則(平成20年3月31日規則第8号)

- 1 この規則は、平成20年4月1日から施行する。
- 2 平成20年3月31日において現に本学に在学する者(以下「在学者」という。)及び平成20年4月1日以降に在学者の属する学年に再入学、転入学又は編入学する者については、改正後の別表(1)

の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則（平成21年3月19日規則第11号）

- 1 この規則は、平成21年4月1日から施行する。
- 2 平成21年3月31日において現に本学に在学する者（以下「在学者」という。）及び平成21年4月1日以降に在学者の属する学年に再入学、転入学又は編入学する者については、改正後の別表（1）の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則（平成22年3月30日規則第40号）

- 1 この規則は、平成22年4月1日から施行する。
- 2 平成22年3月31日において、現に本学に在学する者（以下「在学者」という。）及び平成22年4月1日以降に在学者の属する学年に再入学、転入学又は編入学する者については、改正後の別表1、別表2及び別表3の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則（平成23年3月4日規則第14号）

- 1 この規則は、平成23年4月1日から施行する。
- 2 平成23年3月31日において、現に本学に在学する者（以下「在学者」という。）及び平成23年4月1日以降に在学者の属する学年に再入学、転入学又は編入学する者については、この規則にかかわらず、なお従前の例による。

附 則（平成28年2月25日規則第3号）

- 1 この規則は、平成28年4月1日から施行する。
- 2 平成28年3月31日において、現に本学に在学する者（以下「在学者」という。）及び平成28年4月1日以降に在学者の属する学年に再入学、転入学又は編入学する者については、この規則にかかわらず、なお従前の例による。

附 則（平成28年3月4日規則第12号）

この規則は、平成28年4月1日から施行する。

附 則（平成28年3月31日規則第72号）

- 1 この規則は、平成28年4月1日から施行する。
- 2 平成28年3月31日において現に本学に在学する者が履修した科目の学習の評価については、次のとおり読み替えるものとする。

評価区分	評価
秀	A+
優	A
良	B
可	C
不可	D

附 則（平成29年3月31日規則第53号）

- 1 この規則は、平成29年4月1日から施行する。
- 2 平成29年3月31日において、現に本学に在学する者（以下「在学者」という。）及び平成29年4月1日以降に在学者の属する学年に再入学、転入学又は編入学する者については、この規則にかかわらず、なお従前の例による。

附 則（平成30年5月1日規則第31号）

この規則は、平成30年5月1日から施行し、平成30年4月1日から適用する。

附 則（令和元年10月23日規則第108号）

この規則は、令和元年10月23日から施行し、平成31年4月1日から適用する。

附 則（令和2年3月31日規則第138号）

この規則は、令和2年4月1日から施行する。

附 則（令和3年3月31日規則第51号）

- 1 この規則は、令和3年4月1日から施行する。
- 2 令和3年3月31日において、現に本学に在学する者（以下「在学者」という。）及び令和3年4月1日以降に在学者の属する学年に再入学、転入学又は編入学する者の修得すべき単位数については、この規則にかかわらず、なお従前の例による。

附 則 (令和 年 月 日規則第 号)

- 1 この規則は、令和4年4月1日から施行する。
- 2 令和4年3月31日において、現に本学に在学する者（以下「在学者」という。）及び令和4年4月1日以降に在学者の属する学年に再入学、転入学又は編入学する者の修得すべき単位数については、この規則にかかわらず、なお従前の例による。

別表 1
(1)第1学年

授 業 科 目		修 得 す べ き 単 位 数						備 考	
		医 学 部			歯 学 部				
		医学科	保健衛生学科		歯学科	口腔保健学科			
			看護学 専攻	検査技 術学専 攻		口腔保 健衛生 学専攻	口腔保 健工学 専攻		
自由教育講義系	人文科学・社会科学	哲学Ⅰ						選択科目 1科目 2単位	
		哲学Ⅱ							
		倫理学Ⅰ							
		倫理学Ⅱ							
		心理学Ⅰ							
		心理学Ⅱ							
		宗教学Ⅰ							
		宗教学Ⅱ							
		芸術Ⅰ							
		芸術Ⅱ							
		歴史学AⅠ							
		歴史学AⅡ							
		歴史学BⅠ							
		歴史学BⅡ							
		民俗学Ⅰ							
		民俗学Ⅱ							
		科学史Ⅰ							
		科学史Ⅱ							
		文学AⅠ	8	8	8	8	8		8
		文学AⅡ							
		文学BⅠ							
		文学BⅡ							
		法学Ⅰ							
		法学Ⅱ							
		政治学Ⅰ							
		政治学Ⅱ							
		経済学Ⅰ							
		経済学Ⅱ							
		社会学AⅠ							
		社会学AⅡ							
		社会学BⅠ							
		社会学BⅡ							
社会心理学Ⅰ									
社会心理学Ⅱ									
社会思想史Ⅰ									
社会思想史Ⅱ									
文化人類学Ⅰ									
文化人類学Ⅱ									

		Japanese Culture and Society I							
		Japanese Culture and Society II							
		グローバル教養科目(注1)							
		人文社会科学特論(注1)							
	自然科学	物理学入門	1 (注2)		1 (注2)	1 (注2)		選択科目	
		生物学入門							
		化学入門							
		数学Ⅰ	1		1	1		必修科目	
		物理学Ⅰ	1		1	1			
		数学Ⅱ	1 (注3)			1 (注3)		医学 科・歯 学科 は、選 択科 目。検 査技術 学専攻 は、必 修科 目。	
		物理学Ⅱ			1				
		統計学		1	1		1	必修科目	
		化学	2		2	2			
		化学基礎		1			1		1
		生物学	2		2	2			
		細胞生物学基礎		1			1		1
		人体の生物学基礎		1			1		1
自由教育実習系	外国語	英語	4	4	4	4	4	4	必修科目
		日本語(注4)							選択科目
		ドイツ語							
		フランス語	4	4	4	4	4	4	1科目 4単位
		中国語							
		スペイン語							
	自然科学	物理学実験	1			1		必修科目	
		化学実験	1			1			
		生物学実験	1			1			
		サイエンスPBL入門	1			1			

		科学基礎実験		1 (注5)	1		1 (注5)	1 (注5)	看護学専攻・口腔保健衛生学専攻・口腔保健工学専攻は、選択科目。検査技術学専攻は、必修科目。
		科学基礎演習							
		情報科学		1	1		1	1	必修科目
		情報処理	1			1			
	保健体育	スポーツ・健康科学	1	1	1	1	1	1	必修科目
		フィットネスマネジメント	1	1	1	1	1	1	
自由教育セミナー系	共通領域	共通領域セミナー科目	2	1	1	2	1	1	必修科目(具体的な科目名は、全学共通科目教育要項に定める。)
基礎教育系	共通領域	教養総合講座	1	1	1	1	1	1	必修科目
第1学年 小計			34	26	31	34	26	26	

(注)

- 1 詳細は、全学共通科目教育要項に定める。
- 2 医学部医学科、保健衛生学科検査技術学専攻及び歯学部歯学科の学生については物理学入門、生物学入門、化学入門のうちから1科目(1単位)を選択する。
- 3 医学部医学科及び歯学部歯学科の学生については数学Ⅱ、物理学Ⅱのうちから1科目(1単位)を選択する。
- 4 外国人留学生のみ履修できる。
- 5 保健衛生学科看護学専攻及び口腔保健学科の学生については科学基礎実験又は科学基礎演習のいずれか1科目(1単位)を選択する。

(2)第2学年

授業科目			修得すべき単位数						備考
			医学部			歯学部			
			医学科	保健衛生学科		歯学科	口腔保健学科		
				看護学専攻	検査技術学専攻		口腔保健衛生学専攻	口腔保健工学専攻	
基礎教育系	教養教育	生命科学基礎	2			2			必修科目
		主題別選択Ⅰ	1			1			
	連携教育	教養英語				4			
		情報科学演習				1			
		サイエンスPBL				1			
		生命科学(人体の生物学)				2			
		生命科学(生物物理化学)				2			
		人文社会科学総合講義				2			
		医療人間学概論(倫理学)		1					
		医療人間学概論(法学)		1					
		医療人間学セミナー		1					
第2学年 小計			3	3		15			

(3)第3学年

授業科目			修得すべき単位数						備考
			医学部			歯学部			
			医学科	保健衛生学科		歯学科	口腔保健学科		
				看護学専攻	検査技術学専攻		口腔保健衛生学専攻	口腔保健工学専攻	
基礎教育系	教養教育	主題別選択Ⅱ	1			1		必修科目	
		主題別人文社会科学セミナー	2			2			
第3学年 小計			3			3			

(4)第4学年

授業科目			修得すべき単位数					備考	
			医学部			歯学部			
			医学科	保健衛生学科		歯学科	口腔保健学科		
				看護学専攻	検査技術学専攻		口腔保健衛生学専攻		口腔保健工学専攻
基礎教育系	連携教育	医療人間学概論(法学)			1			必修科目	
第4学年 小計					1				
全学共通科目 合計			41	30	33	53	27	27	

別表2

摘要	評価基準	評価	単位認定
第7条第1項に該当する授業科目	当該科目の到達目標を期待された水準を超えて達成した	A+	合格
	当該科目の到達目標を全て達成した	A	
	当該科目の到達目標を概ね達成した	B	
	当該科目の到達目標のうち最低限を達成した	C	
	当該科目の到達目標を達成していない	D	不合格
	到達目標の達成度を評価できない	F	

別表3

摘要	評価基準	評価	単位認定
第7条第2項に該当する授業科目	当該科目の到達目標を達成している	合格	合格
	当該科目の到達目標を達成していない	不合格	不合格